

日本酒をめぐる状況

平成28年3月22日
農林水産省 政策統括官

1 「日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会」の開催について

情報交換会の開催に至る背景

- 原料となる酒造好適米の需要は、国内における特定名称酒の販売が堅調に推移していることや、輸出も増加傾向にあることから高まっている。
- 政府では、農林水産物・食品の輸出拡大を推進しており、日本酒についても、関係者と一丸となって取り組んでいることから、農林水産省としても、日本酒の輸出拡大を見据えた生産体制を構築し、需要に応じた日本酒原料米の確保について取り組む必要がある。

情報交換会の進め方

- こうしたことから、今回、日本酒原料米の生産及び酒造メーカーの方々などに参集いただき、情報交換会を開催し、
 - ① 日本酒原料米の取引の現状やその課題を踏まえ、
 - ② 需要に応じた安定的な生産に向けて、関係者が取り組むべき方策等について集中的に議論を進め、今後の方向性等をとりまとめることとしたい。

論 点

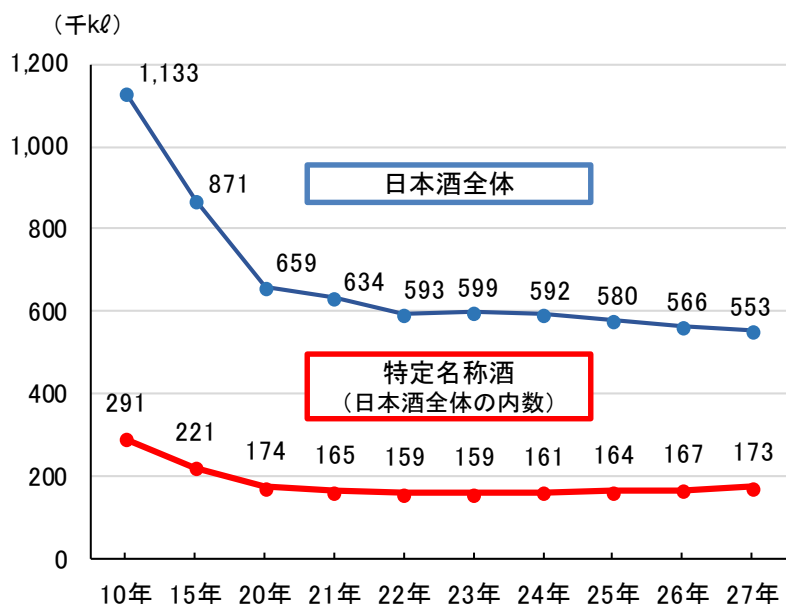
- ① 日本酒原料米の安定供給に向けた取組み
 - ・ 生産者は需要者の購入計画を踏まえ、種子の手配、作付けを実施しているが、更なる酒造好適米の安定生産・安定調達を実現するためには、複数年契約の拡大が必要。
- ② 作況変動等に対応する仕組みの構築
 - ・ 作柄等の不確定な要因による過不足を回避するための仕組みを構築する必要。
- ③ 日本酒の輸出拡大等を踏まえた需要量を見通した上での、日本酒原料米の生産・供給体制の構築
 - ・ 日本酒原料米の需要量の的確な把握とそれを踏まえた作付けについて、関係者間で共有すべき情報について検討が必要。

※ 今回の情報交換会を経て、さらに検討を深める必要が生じた場合は、別途情報交換会を開催（持ち回り開催も含む。）

2 日本酒の出荷状況

- 日本酒の国内出荷量は、ピーク時には170万klを超えていたが、他のアルコール飲料との競合などにより、現在は60万klを割り込む水準まで減少。
- 近年、日本酒全体の国内出荷量が減少傾向で推移する中で、消費者の志向が量から質へと変化してきており、特定名称酒（吟醸酒、純米酒等）の出荷量は堅調に推移。

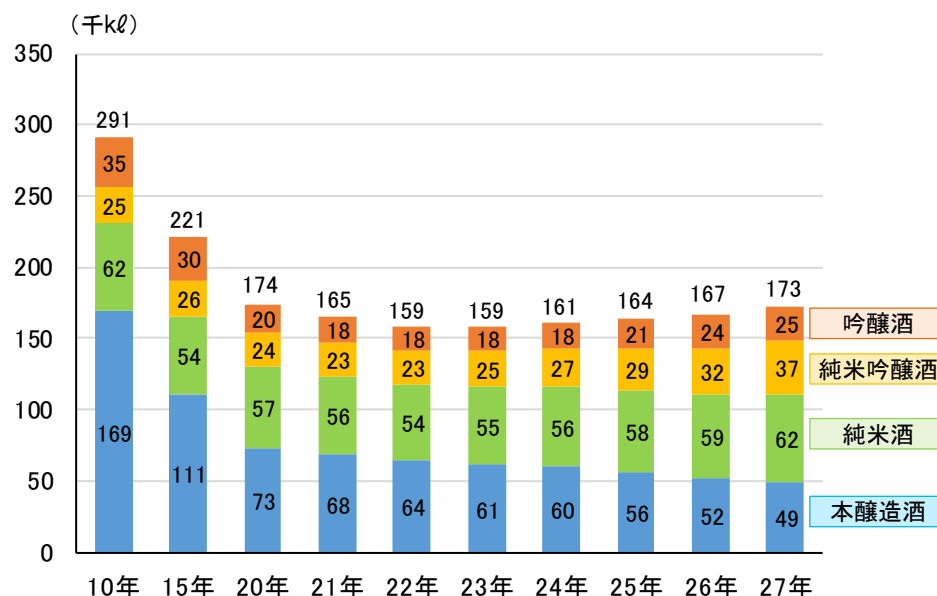
日本酒の国内出荷量の推移



資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。

注：27年は概算値。

特定名称酒の種類別出荷量の推移



資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。

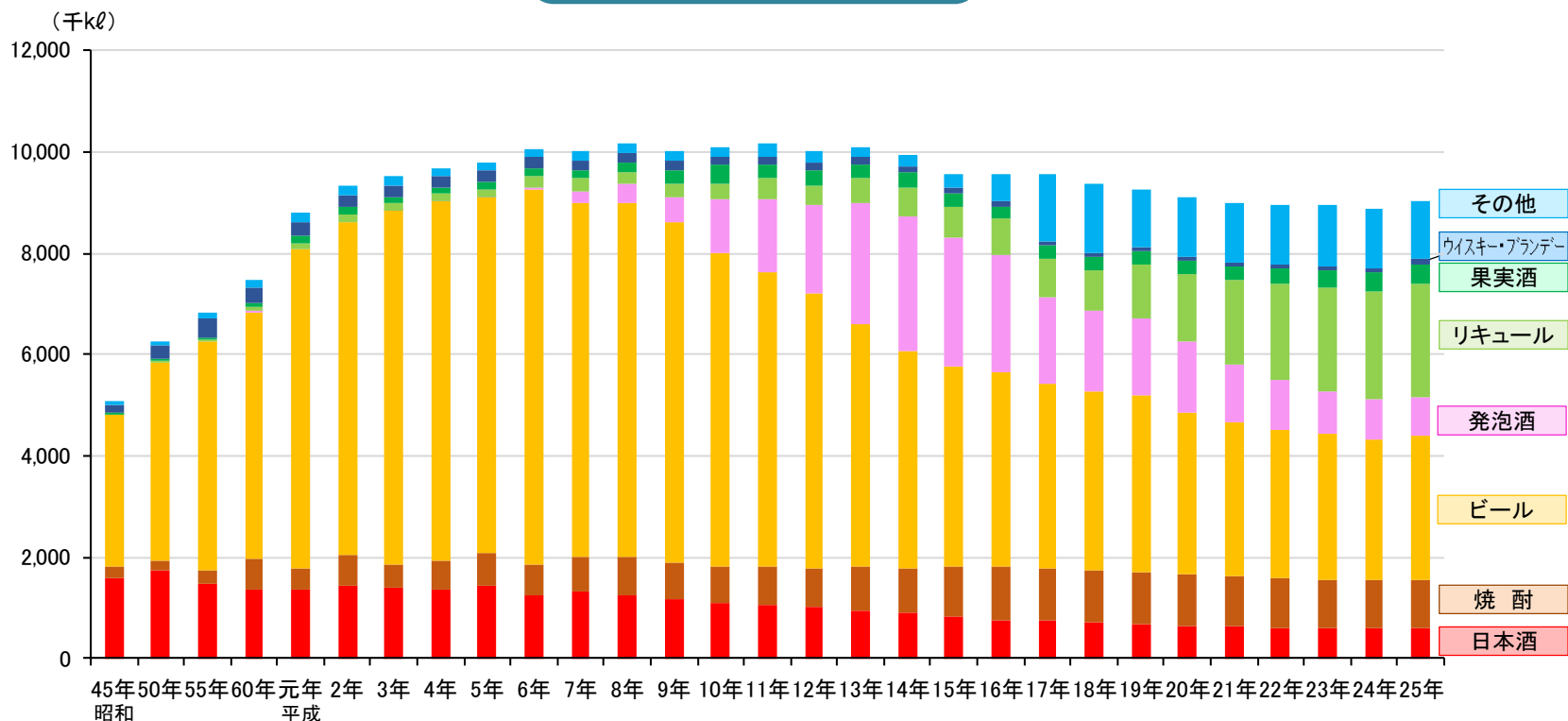
注1：清酒は、一般酒のほか、原料米及び製造方法などの諸条件（使用原料、精米歩合など）により、吟醸酒、純米酒等8種類に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

注2：27年度は概算値。

3 酒類別の出荷量の推移

- アルコール飲料全体の出荷量は、消費者志向の変化等により、酒類間での移動はあるが、全体ではやや減少傾向で推移。
- 近年では、日本酒、焼酎、ビールなどが減少する一方で、チューハイなどのリキュール、果実酒（ワイン）、ウイスキー、ブランデーなどは増加。

酒類別の出荷量の推移



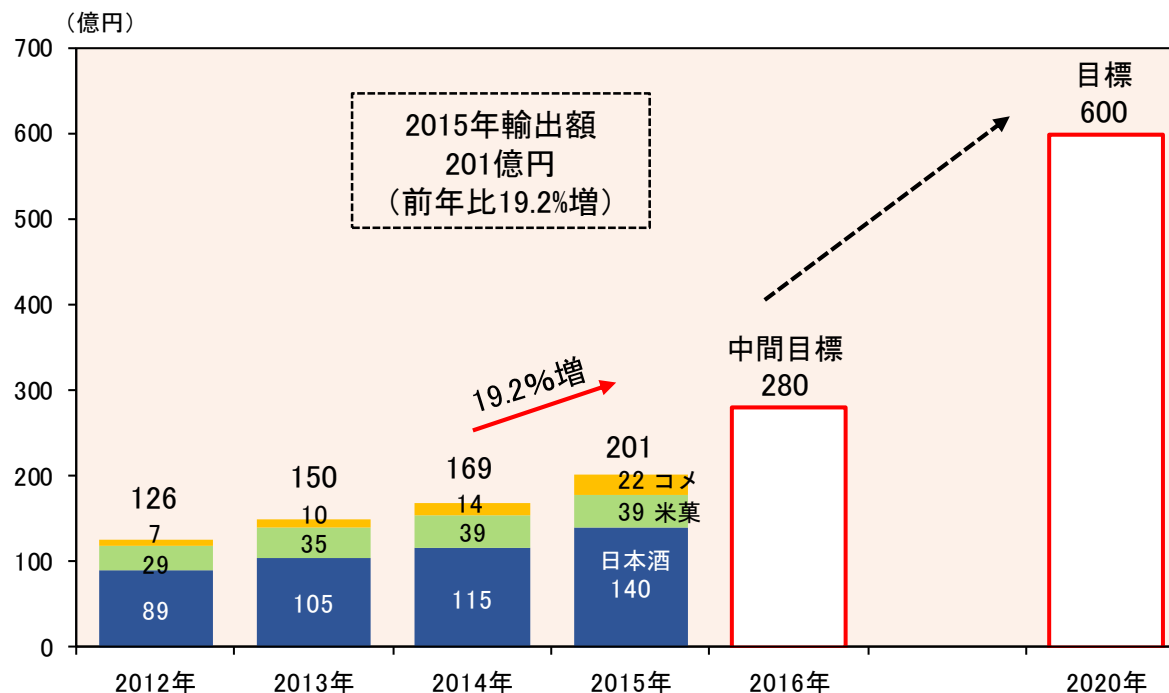
資料：「酒のしおり」（国税庁）

注：焼酎は連続式蒸留焼酎及び単式蒸留焼酎の合計、果実酒には甘味果実酒を含む、その他は合成清酒、みりん、スピリッツ、その他醸造酒等の合計。

4 コメの輸出戦略

- 農林水産省が平成25年8月に策定・公表した「国別・品目別輸出戦略」においては、農林水産物・食品の輸出額を2020年（平成32年）までに1兆円とするとの目標を掲げ、このうち、日本酒を含めたコメ・コメ加工品については、2020年の輸出額目標を600億円としている。
- 2015年（平成27年）のコメ・コメ加工品の輸出額は201億円であり、前年比19.2%増。

コメ・コメ加工品の輸出状況



資料：財務省「貿易統計」（政府による食糧援助を除く。）
注：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。

5 日本酒の輸出の状況

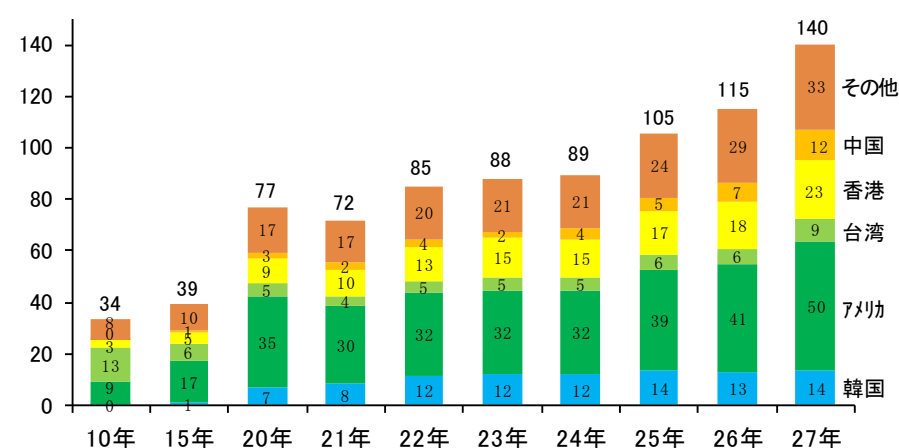
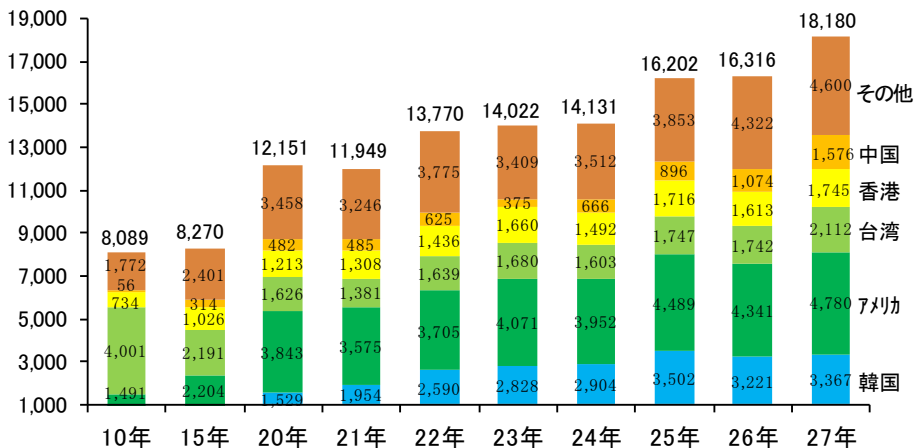
- 日本酒の国内出荷量が減少傾向にある中、輸出量は、日本食ブーム等を背景に近年増加傾向にあり、平成27年の輸出数量は18,180kℓと、この10年で倍増。また、日本酒の全出荷量のうち輸出量が占める割合は3.2%となっている。
- 日本酒の輸出金額については、平成25年に初めて100億円を突破して、平成27年には140億円となり、この10年で約3倍の伸び率となっている。
- 平成27年における日本酒の輸出国は、62ヶ国。全体数量及び金額のうち、アメリカ、韓国、台湾、香港、中国の5ヶ国で約7割を占めている。
- 平均輸出単価は、1ℓ当たり771円となっている。国別では、1ℓ当たり香港1,308円、アメリカ1,045円と平均を上回る水準であるのに対し、中国、台湾、韓国は平均を下回る水準。

日本酒の輸出量の推移

日本酒の輸出金額の推移

(単位:kℓ)

(億円)



資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

日本酒の全出荷量のうち輸出量が占める割合

輸出先国別平均輸出単価

(単位:円/ℓ)

10年	15年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年
0.7%	0.9%	1.8%	1.9%	2.3%	2.3%	2.3%	2.7%	2.8%	3.2%

	平均	香港	アメリカ	中国	台湾	韓国
27年	771	1,308	1,045	744	421	405

注：年は暦年。

資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

6 日本酒原料米の使用状況

- 日本酒の原料として使用される米には、
 - ① 主に「もと米」（麴米）として使用される「酒造好適米」（山田錦、五百万石など）
 - ② 仕込みに使用する「かけ米」（主食用米、加工用米など）の2種類があり、契約栽培を中心に取引が行われている。
- 平成26年産における日本酒原料米の使用量は約25万トン程度で、その内訳は、酒造好適米約9万トン（36%）、加工用米約11万トン（42%）、主食用米約3万トン（11%）、特定米穀約3万トン（10%）となっている。
- 近年、日本酒の出荷量が減少傾向で推移する中、特定名称酒が堅調に推移していることから、特に、酒造好適米の使用量が増加。

日本酒原料米の使用状況

(単位:千トン)

	10年産	15年産	20年産	21年産	22年産	23年産	24年産	25年産	26年産
原料米	405	315	261	246	232	238	241	243	248
酒造好適米	99	75	77	71	65	65	68	76	90
主食用米	165	92	60	54	43	50	57	34	27
加工用米	86	89	74	72	77	71	79	95	105
その他	55	59	50	49	47	52	37	38	26

注1：原料米の全体使用量は国税庁公表値。

注2：各年産ごとの内訳は、日本酒造組合中央会による推計値

加工用米の生産状況

(単位:千トン)

	うるち米	もち米	合計	全国流通	地域流通
23年産	123	32	155	46	108
24年産	149	32	181	66	115
25年産	178	29	208	83	125
26年産	232	34	266	111	155
27年産	208	48	257	96	161

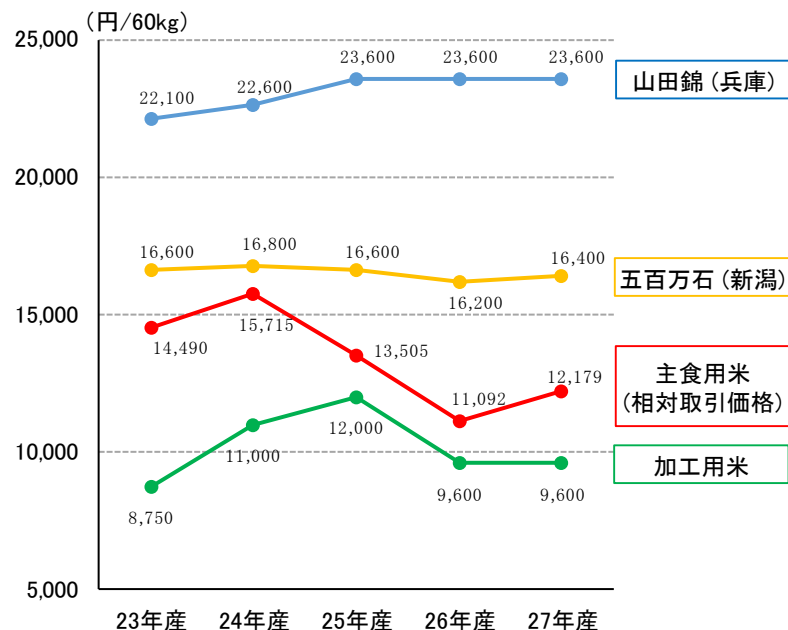
資料：「加工用米生産量」（農林水産省）

注：27年産は加工用米の取組として認定を受けた数量（平成27年10月15日現在）

7 酒造好適米の需給状況

- 酒造好適米は、主食用品種に比べて栽培が難しく、収量が低いため、取引価格は高値で安定している。
- 平成26年産から酒造好適米の使用増加分について、生産数量目標の枠外での生産を可能とする運用見直し等を行った結果、概ね酒造メーカーの希望に見合った生産が行われた。
- 一方、平成26年産主食用米（うるち米）の取引価格が大幅に低下したこと等により、平成27年産酒造好適米の作付けが急増したことや、作柄が良好であったこと及び産地が急な作付面積の変更（減少）に対応できなかったこと等から供給過剰の状況にあり、最近では産地品種銘柄によっては安値で取引されているケースもある。

原料米の販売価格の推移



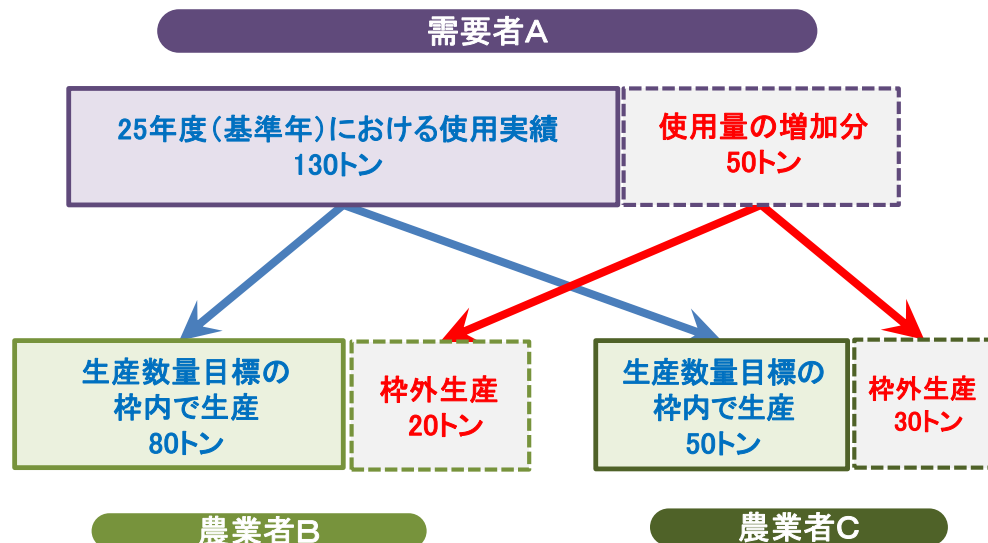
注1: 酒造好適米(日本酒造組合中央会からの聞き取り)は、1等米の販売価格で、包装代、消費税相当額、運賃を含まない。

注2: 主食用米(相対取引価格)は、出回りから翌年10月(27年産は28年1月)までの通年平均価格であり、1等米の価格で、包装代、運賃を含み、消費税相当額を含まない。

注3: 加工用米(需要者からの聞き取り)は、需要者指定場所持込、包装代を含み、消費税相当額を含まない。

【イメージ】

日本酒の生産増に伴い生産数量目標の枠外として生産できる酒造好適米の具体的取組み



8 酒造好適米の生産状況

- 平成27年産酒造好適米の生産量は約10万トンで、そのうち、兵庫、新潟、長野、岡山、富山の5県で約6割を占めている。
- 酒造好適米の中でも、特に「山田錦」、「五百万石」は、全国の酒造メーカーからのニーズが多く、この2銘柄だけで酒造好適米全生産量の約6割を占めている。

酒造好適米の産地別生産量の推移

(単位:トン)

	23年産	24年産	25年産	26年産	27年産	シェア
全国計	65,461	68,335	75,813	90,185	104,744	100%
兵庫	18,932	19,216	22,109	26,199	28,305	27%
新潟	10,638	10,802	11,878	13,167	15,681	15%
長野	3,875	4,866	5,409	7,144	6,613	6%
岡山	2,638	2,970	3,158	4,562	5,874	6%
富山	3,117	3,693	4,412	4,703	5,509	5%
その他	26,261	26,788	28,847	34,410	42,762	41%

資料:「農産物検査結果」(農林水産省) 注:平成28年1月31日現在の速報値。

酒造好適米の銘柄別生産量の推移

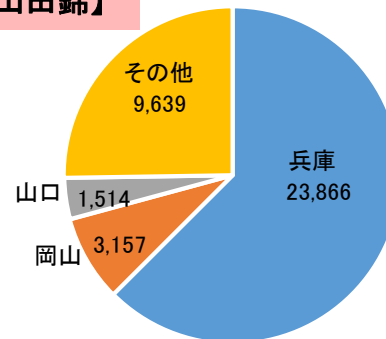
(単位:トン)

	23年産	24年産	25年産	26年産	27年産	シェア
全国計	65,461	68,335	75,813	90,185	104,744	100%
山田錦	20,027	21,217	23,081	29,812	38,176	36%
五百万石	18,888	18,798	20,602	22,596	25,593	24%
美山錦	5,367	6,052	6,426	7,786	7,831	7%
雄町	1,397	1,538	1,700	2,312	2,847	3%
出羽燦々	1,668	1,600	1,719	2,044	2,247	2%
その他	18,114	19,130	22,285	25,635	28,050	27%

資料:「農産物検査結果」(農林水産省) 注:平成28年1月31日現在の速報値

27年産酒造好適米の主要銘柄の生産状況

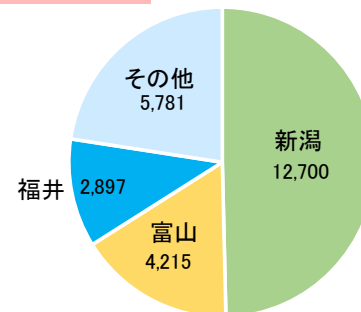
【山田錦】



(単位:トン)

	27年産	シェア
兵庫	23,866	63%
岡山	3,157	8%
山口	1,514	4%
その他	9,639	25%

【五百万石】



(単位:トン)

	27年産	シェア
新潟	12,700	50%
富山	4,215	16%
福井	2,897	11%
その他	5,781	23%

資料:「農産物検査結果」(農林水産省)
注:平成28年1月31日現在の速報値